



40代女性が語る、70代の母親について思うこと

親子の主導権が変わったな、と感じます

ここまでは、60代—30代母娘を中心に、孫を含めた3世代コミュニケーションを見てきたが、もう少し上の世代はどうだろう？ 40代後半の女性3人に70代の実母について語ってもらった。

参加者プロフィール

- Wさん**：49歳、独身、両親と同居。母親75歳。妹は海外在住のため、両親の面倒は自分1人で…と覚悟を決める日々
- Mさん**：49歳、夫婦2人暮らし。母親・75歳は、近居ながら弟2人（独身）と同居。夫は次男だが実家が旧家なので、自分の母との2世帯同居は考えられない
- Nさん**：49歳、2児の母。母親・71歳と毎年行く海外旅行は親孝行の気持ちから。同じお金を出すなら、友達と行きたいのがホンネ

「母と娘の幸せ研究室」

リビングくらしHOW研究所では、(株)クオラスと協働で、40歳代の娘と70歳代の母との絆コミュニケーションを調査・研究する「母と娘の幸せ研究室」を主宰。360組の母娘モニターを組織し、調査・販促メニューの開発に取り組んでいる。詳しくは、<http://www.kurashihow.co.jp/>

母親が70代になって以前と変わった？ 変わらない？

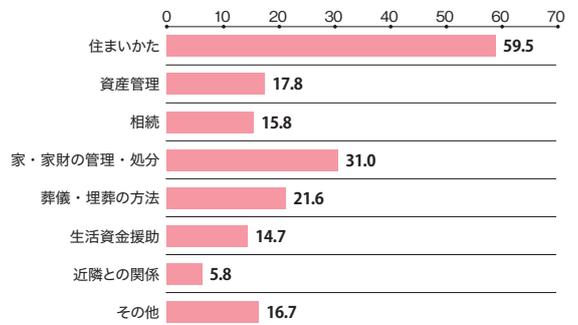
W 母はマージャンが趣味でよく出かけていたのですが、70歳を過ぎたところから、しんどい仲間も少なくなってきたみたいで、あまり出かけなくなりましたね。人間関係や行動範囲が狭くなったのを見てみると、ちょっと寂しくなります。

N 趣味の能楽をやったり、息子(孫)のサッカーの試合が月2〜3回あるので見に来たり、元気に歩いていきます。弟夫婦が近くに住んでいてそちらにも孫がいるけど、電車で1時間くらい離れている私の方にわざわざ来ますね。弟と母の仲はいいし嫁姑の仲も普通だけど、義妹の実家も近いので、内孫はそちらと頻繁に行き来しているようです。

M うちの身体は元気だけど、精神的な面が心配。最近、近所で立派な2世帯住宅を建てて娘世帯と同居というケースが多くて、よくそんな話を聞かされるから、羨ましいと思っているのかも。母は、子どもに依存するタイプだから。

70代の元気で自立している実母がいるミセスに聞きました

親の今後について心配なこと（複数回答）



2012年2月 首都圏・関西圏でのWEBアンケート調査。有効回答468

W 家のこと、お墓のこと、親戚付き合いのこと、といういろいろ相談されるようになって、主導権が変わったな、と感じるようになりました。お墓は私のアドバイスで、田舎から近くに移しました。

M うちの母は「子どもは余計な口出しはしなくていい」というタイプだけど、私が口出ししないと進まない案件も出てくるようになってきて、母親に対して意見するようになってきましたね。

N 干渉するタイプの親なので、私は母を反面教師として、相談ごとはほとんどしてきませんでした。仲が悪いわけではないのですが(笑)、あまり深いコミュニケーションはしてこなかったんです。この3年くらい、一緒に旅行に行く友達も減ってきて娘となら行きやすくなったうね、毎年2人で海外旅行に行くようになったんですが、母が私にあまり干渉しないようになって意識しているのが分かります。少し、変わってきましたね。

親の今後について揺れ動く、今の気持ち

W 以前はまったく考えませんでした。母親が病院通いするようになって、「私が介護するのだから…」って考えるようになりました。

M 金銭的な準備はしていますか？

W 自分の老後の備えで精いっぱい。親は自分たちの分の蓄えくらいはあると思うけど…。本当のところは分かりませんね。

N 先日、母が友達に誘われて、老人ホームの見学に行ってきたって。話はそれで終わったけど、一緒に住むって聞くべきだったのかしら。

W “終活”って言葉、ありますよね。親も考えているとは思いますが、なかなか具体的に聞けないですね。いつ介護状態になっても不思議はないけど、いざという事態にならないと、どこか先送りしちゃいます。

N 母は自分の親の介護で苦労した経験があるので、自身の将来についてはいろいろ考えているはず。こういった内容は子どもからは聞けないから、親から言ってもらいたいですね。

HOW's View

年代、世代によって変化する母と娘の関係値

この座談会に参加してくれた3人は、いずれも49歳で“雇用機会均等法1期生”。10〜12ページで取材した60代30代の母娘の関係とは、違う雰囲気を感じた。決して仲が悪いワケではないのだが、母と娘の間に微妙な距離があるのだ。友達や姉妹のような近さではない、親と子という歴然とした関係。それが親の高齢化とともに、いつしか立場が逆転し、親を守る、支える意識が強くなってくる。とはいえ、まだまだ親は元気なので、「もう、しばらくは…」というモラトリアム状態から抜けきれないのも事実。将来のことを素直に語り合える、きっかけ作りが必要だ。